

第8回防災文化講演会を気仙沼市で開催しました（2015/10/11）

テーマ：水害対策、土砂災害対策、地域防災活動
場所：館山1区自治会館（気仙沼市館山1丁目）

10月11日（日）、宮城県気仙沼市の館山1区において同地区の自主防災組織事務局が主催する防災講演会が催され、災害科学国際研究所が気仙沼市内で開催してきました「防災文化講演会」の第8回の講演会として共同開催させていただきました。講演は、安倍祥助手（寄附研究部門）が「大雨による災害への備えと地域防災活動」と題して話題提供を行い、本研究所の気仙沼サテライトから熊谷誠一技術補佐員も参加しました。

宮城県内では、今年9月、大雨特別警報が発表され各地で被害のあった平成27年9月関東・東北豪雨や、その翌週には南米チリで発生した遠地津波にともなう津波注意報の最中に沿岸部の地域を中心に豪雨に見舞われたことなど、各地で被害が相次ぎました。講演会では、近年の大雨による災害をふり振り返りながら、荒天時の避難が難しい状況における徒歩や車による行動の限界や、丈夫な建物などの2階以上にとどまる垂直避難の方法、そして、災害時の情報伝達手段や、雨量や河川の状況のほか土砂災害の危険度などをリアルタイムに把握する情報収集方法などを解説したほか、簡易水防工法など家庭や地域でも取り組める備えの方法をお伝えしました。参加された館山1区の住民からは、大雨の際に冠水の被害が繰り返されてきたことや、隣接する大川（おおかわ）から過去に浸水する被害があったことなどの話題をいただき、大雨による災害について情報交換をしながら、約25名の参加の皆様と備えの方法を考えました。

災害科学国際研究所では、本研究所が取り組む災害科学研究の成果や、防災・減災に関する情報を発信するため、「防災文化講演会」を継続的に開催してきました。今後も、情報発信とともに地域の皆様と災害への備えを考えて参ります。



講演する安倍助手

文責：安倍 祥（寄附研究部門）